

論文審査の結果の要旨

報告番号	博(医歯薬)甲第 1308 号	氏名	山川 智弘
学位審査委員	主 査 岩永 正子 副 査 益谷 美都子 副 査 池田 裕明		
<p>論文審査の結果の要旨</p> <p>1 研究目的の評価                      本研究は、臨床領域で成人 T 細胞性白血病(ATLL)患者固有の腫瘍クローンを定量化する方法として <b>Unique integration site (UIS)</b>に基づく ATLL のクローン性分析手法を新規開発したもので、目的は十分に妥当である。</p> <p>2 研究手法に関する評価                      ATLL 患者 10 名と HTLV-1 carrier 8 名から得られた末梢血単核細胞、リンパ節生検組織、または、皮膚生検組織を用いて、HTLV-1 の組込み部位を <b>deep sequence</b> で増幅後、<b>CLC genomics</b> による <b>OUT</b> クラスタ分析によってクラスタ部位を特定し、その後、従来からある <b>Semi-nested PCR</b> 法と、著者らが新規開発した <b>Digital PCR</b> 法によって ATLL 患者固有の腫瘍クローンを経時的に定量し、ATL の各クローンが治療前後でどのように推移するかを解析後、新規開発した <b>Digital PCR</b> 法の臨床応用の妥当性・有用性を評価したもので、研究方法も妥当である。</p> <p>3 解析・考察の評価                      上記手法で解析した結果、新規開発した <b>Digital PCR</b> 法によって個々の ATLL 患者の腫瘍クローンを追跡することに成功し、各クローンが治療に対して異なる反応を示すことを実証した。手順は簡便で臨床的に実行可能であり、ATLL 患者の適切な臨床的評価と管理が容易になり、今後の臨床応用への進展が大いに期待される。</p> <p>以上のように、本論文は、臨床検査医学研究に貢献するところが大きく、審査委員は全員一致で博士（医学）の学位に値するものと判断した。</p>			